

平成28年度大気の測定結果

1 大気汚染常時監視

(1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の常時監視測定局数は、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）が15局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）が2局でした。

長期的評価を行った測定局（16局）の年平均値は、一般局（15局）が0.002ppm、自排局（1局）が0.0005ppm未満であり、図1のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

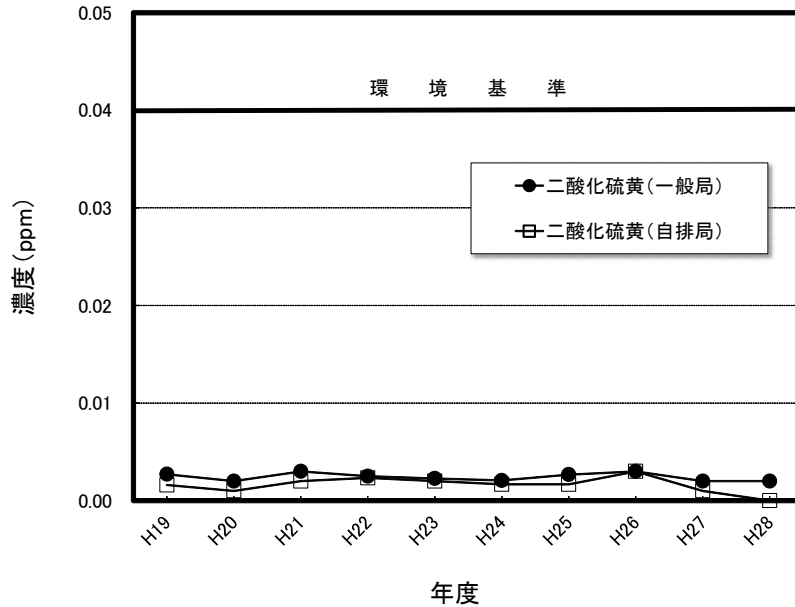


図1 二酸化硫黄濃度の年平均値の経年変化

(2) 二酸化窒素

二酸化窒素の常時監視測定局数は、一般局が11局、自排局が3局でした。

長期的評価を行った測定局（14局）の年平均値は、一般局（11局）が0.005ppm、自排局（3局）が0.008ppmであり、図2のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

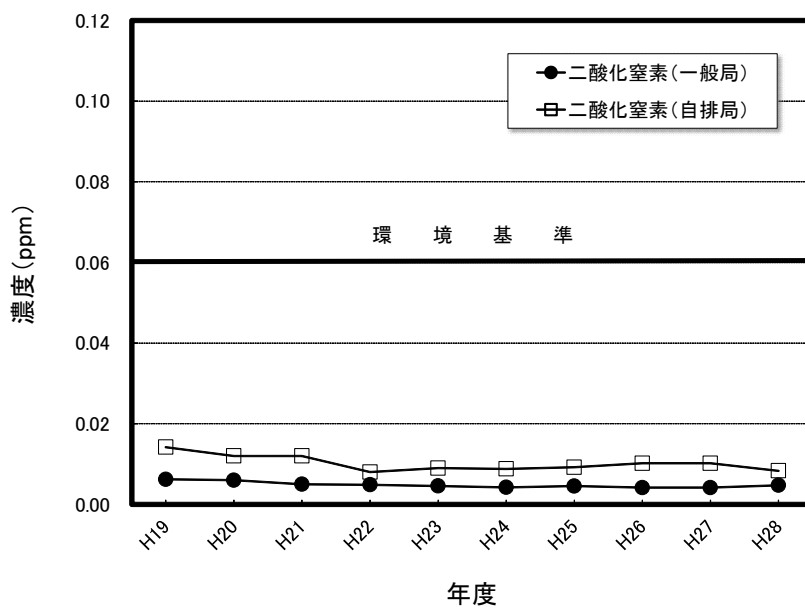


図2 二酸化窒素濃度の年平均値の経年変化

(3) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの常時監視測定局数は、一般局が12局、自排局が1局であり、昼間の日最高1時間値の年平均値は、図3のとおり一般局が0.038ppm、自排局が0.035ppmでした。

13測定局の昼間1時間値の最高値は、0.107ppm（延岡保健所）で、注意報の発令基準（0.12ppm）未満ではありますが、高い値となっています。本県では、これまで注意報を発令したことはありませんが、今後とも、光化学オキシダントの濃度の推移等に注視していく必要があります。

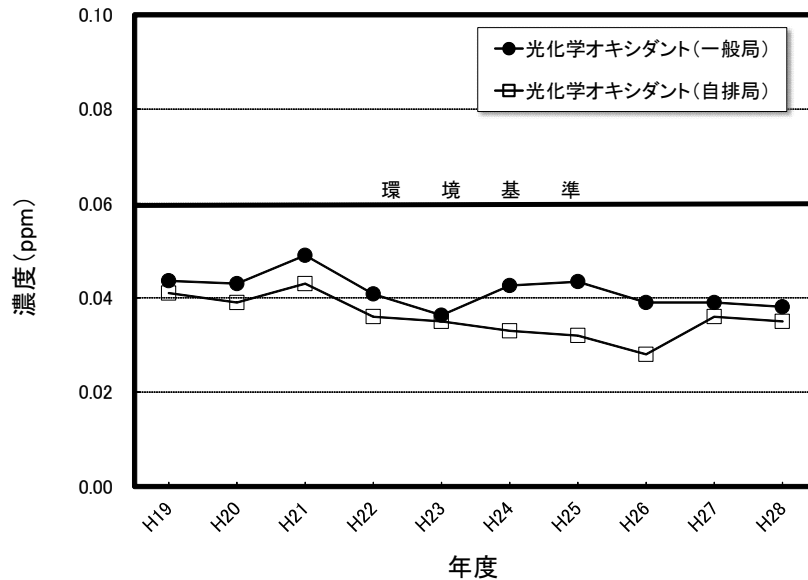


図3 光化学オキシダント濃度の昼間の日最高1時間値の年平均値の経年変化

(4) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の常時監視測定局数は、一般局が11局、自排局が4局でした。

長期的評価を行った測定局(14局)の年平均値は、一般局(10局)が0.019mg/m³、自排局(4局)が0.018mg/m³であり、図4のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

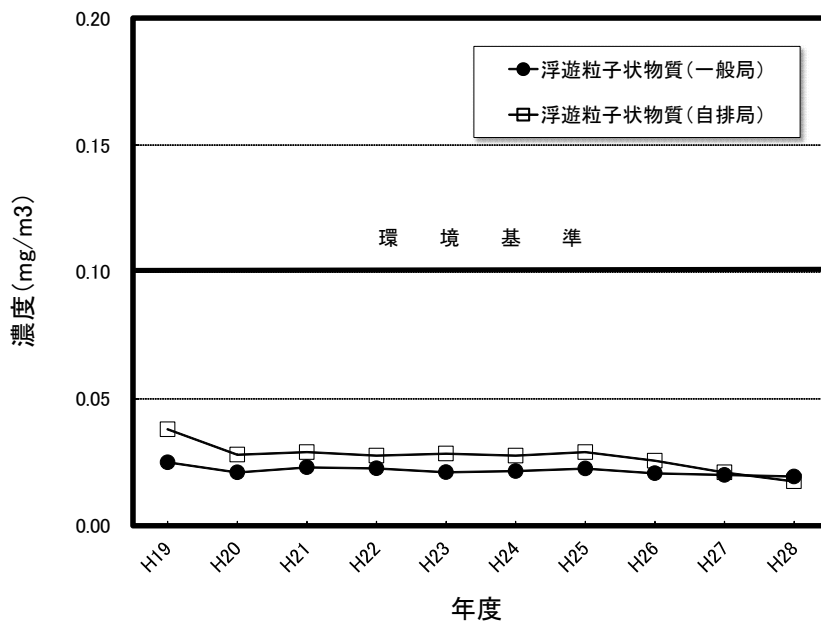


図4 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の経年変化

(5) 微小粒子状物質 (PM2.5)

微小粒子状物質 (PM2.5) の常時監視測定局数は、一般局が11局、自排局が2局でした。

長期的評価を行った測定局 (11局) の年平均値は、一般局 (9局) が $12.7 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自排局 (2局) が $13.3 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、図5のとおりゆるやかな低下傾向がみられます。

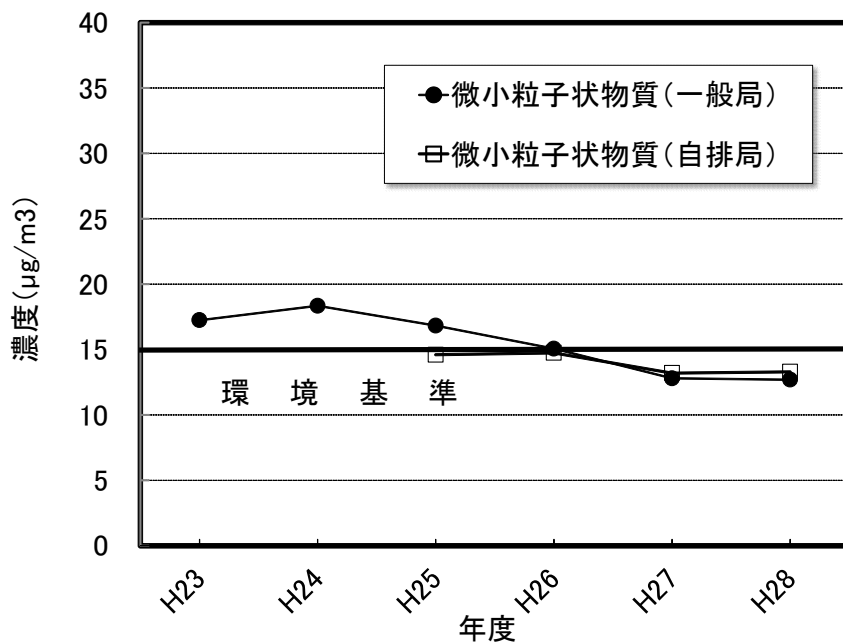


図5 微小粒子状物質 (PM2.5) 濃度の年平均値の経年変化

(6) 一酸化炭素

一酸化炭素の常時監視測定局数は、自排局が3局でした。

長期的評価を行った測定局 (3局) の年平均値は 0.3ppm であり、図6のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

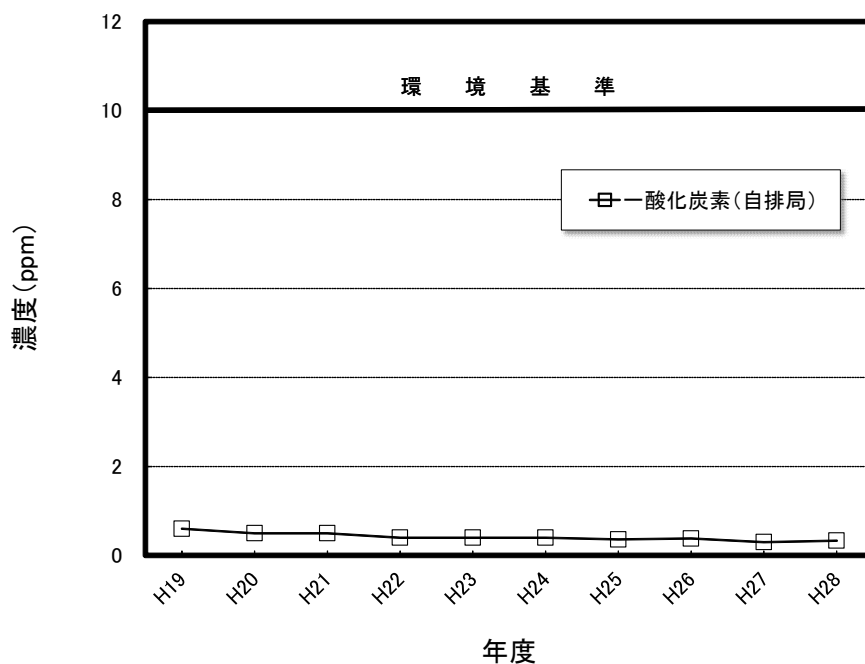


図6 一酸化炭素濃度の年平均値の経年変化

2 有害大気汚染物質モニタリング調査

有害大気汚染物質の調査地点数は、ベンゼンが4地点(宮崎市立図書館、延岡保健所、北部港湾事務所及び都城自動車排出ガス測定局)、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンが3地点(宮崎市立図書館、延岡保健所及び北部港湾事務所)でした。

年平均値は、ベンゼンが $0.83 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、トリクロロエチレンが $0.021 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、テトラクロロエチレンが $0.022 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ジクロロメタンが $1.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、図7のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

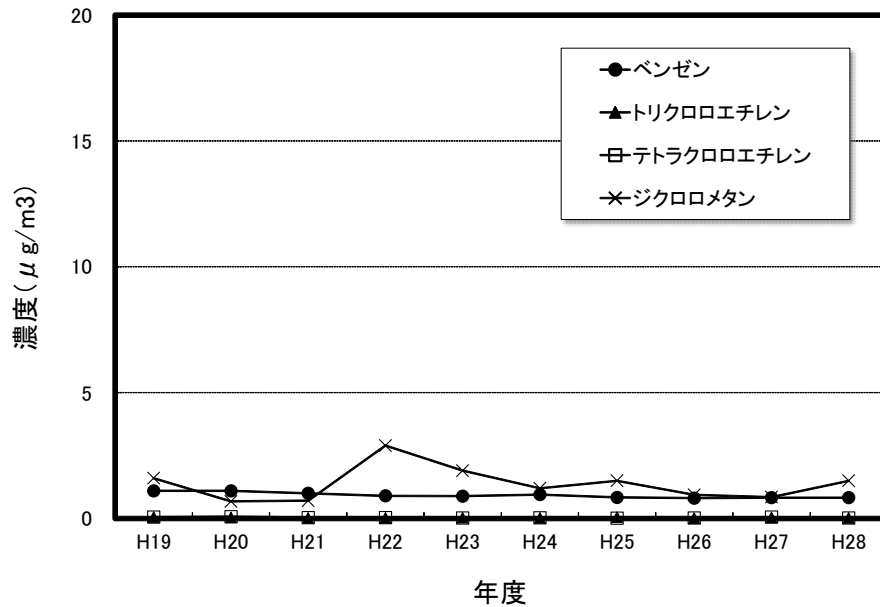


図7 ベンゼン等濃度の年平均値の経年変化